



# 津南ロータリークラブ週報

第2630地区 ROTARY CLUB OF TSU-SOUTH

例会日/毎火曜日  
例会場/津都ホテル 津市大門7-15  
事務所/津市大門10-7  
ピッチャーズビル2階  
TEL 225-2373 FAX 213-6175

会長/林 裕行  
幹事/飯田 聡  
E-mail: src.tsu@dream.ocn.ne.jp  
ホームページ: http://tsu-minami-rc.com/



## 第2554回例会 2019年2月26日(火) 天候 晴

— 3月は水と衛生月間 —



### 例会予定

- 3月5日(火) 外来卓話  
三重郷土会常任理事 浅生 悦生様
- 3月12日(火) 会長エレクト研修報告  
今野信太郎会長エレクト
- 3月19日(火) 会員卓話  
山本 哲司会員
- 3月26日(火) 特別休会

### 進行担当

〔野地副SAA〕

国歌斉唱 ロータリーソング それでこそロータリー

### 来訪者

〔林会長〕

ゲストスピーカー 宮崎 洋史様 (北畠神社宮司)  
津 RC 石川 保典君  
津北 RC 杉本 治君

### 出席報告

〔伊藤(仁)副委員長〕

2月26日 出席率 52名中 38名 73.08%  
2月5日 修正出席率 52名中 52名 100.0%

### ニコBOX

〔土田委員長〕

- 石川 保典君 (津RC) メークアップで先週に続きおじゃましました。申し訳ございませんが早退させていただきます。
- 杉本 治君 (津北RC) 久しぶりのメークアップです。よろしくお願ひします。
- 林 裕行君 北畠神社宮司 宮崎洋史様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。
- 飯田 聡君 本日は外来卓話です。北畠神社宮司 宮崎洋史様をお迎えします。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。
- 宮崎 吉史君 段々気候も穏やかになり梅の花も見頃になってまいりました。花粉症に負けず頑張りたいと思います。

### 会長報告

〔林会長〕

- ◆ 春は別れの季節とも言いますが、卒業式のシーズンがやってきました。津市立橋南中学校 校長の松ヶ谷孝子様から「平成30年度卒業証書授与式」のご案内が届きました。3月7日(木)、津市立橋南中学校体育館で執り行われます。
- ◆ 中央競馬のWIN 5 (ウイン ファイブ) というインターネット限定の馬券で、史上最高の4億7000万円の払戻金が出たということです。的中者はお一人ということで、払戻金は一時所得になると思いますが、税金1億円払ってもまだ3億円残る計算でしょうか。余計なお世話かもしれませんが、ご多幸をお祈りしたいと思います。ちなみに、配当金の最高は、平塚競輪の9億円だそうです。

### 幹事報告

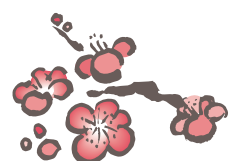
〔飯田幹事〕

- ★ 3月ロータリーレート 1ドル¥110
- ★ 3月5日(火) 例会終了後、臨時総会開催の件
- ★ 2019~2020年度IM組織図の件
- ★ 3月23日(土)「ポッチャ大会」の件
- ★ 例会変更 2件

### 副幹事報告

〔樋口副幹事〕

- 4月14日(日) 地区研修・協議会の件



鈴木 康義君 北畠神社宮司 宮崎洋史様、お忙しい中お越しいただきありがとうございます。本日の卓話よろしくお願ひします。

田島 和雄君 地元美杉クリニックの院長として本日の北畠神社 宮崎宮司様の卓話を楽しみにしております。

北畠神社宮司 宮崎洋史様をお迎えて！  
西井 健之君、薄井 美弥君、田口 浩司君  
宮崎 吉史君、何川 高君、伊藤 孝行君  
千原 一典君、吉村 哲夫君、栗田 明君  
大川 吉崇君、刀根 大士君、岡部 宏司君  
竹内 敏明君、山本 哲也君、伊藤 仁君  
土田 研輔君、今野信太郎君、樋口 直人君

## 外来卓話

### 南朝と北畠父子

北畠神社 宮司  
宮崎 洋史 様



第96代後醍醐天皇の理想とされた大改革が実現したのが建武元年（1334）、故にこれを「建武中興」と呼びます。しかしこの新政には、複雑な問題が噴出し、僅か二年で崩壊します。混乱に乗じて武家政権の復活を目指す足利高氏を棟梁とする武家勢力と、天皇を中心とする宮方の戦いが再び始まりました。このような険しい世相に、公家の身でありながら、武器を持って乗り出さざるを得なかったのが北畠父子でした。

延元元年（1336）10万の大軍の足利軍に対し陸奥守・鎮守府将軍北畠顕家公は、精強な東北の兵五万で攻め上り、苦戦している宮方に加勢したため、足利軍は九州に敗走します。しかし再び九州の武家勢力をまとめて向かって来た軍を迎え撃った楠木正成公は湊川で戦死、天皇は秘境吉野山に御遷幸になります。この時北畠親房公は宗良親王を奉じ、2人の子を伴って伊勢に入国田丸城を拠点としました。陸奥の顕家公に吉野から再び勅命が発せられましたが、各地の武家と途中戦闘を繰り返しながら、ようやく大阪に着いたのが延元3年（1339）、その年の5月22日阿倍野で戦死（堺・石津説も）、弱冠21歳の若さでした。

長男を亡くした親房公は、結城宗広公の献策により、義良親王と宗良親王を奉じ、陸奥守後任の二男顕信公等と伊勢の大湊から東国に出航しますが、暴風雨に遭い夫々各地に流されました。宗広公は伊勢に吹き戻され、この地で無念の内に病没されました。翌延元4年には後醍醐天皇が吉野山で崩御、御年52歳でした。南山慟哭「その時吉野の山が静まりかえった」と歴史書に記されています。

南朝の元勳と称えられる親房公を父とし、そして陸奥守鎮守府将軍の顕家公と顕信公を兄として育った三男顕能公は、伊勢国司に任ぜられるや、伊勢国内の勤皇武将とともに戦い、この国を鎮護する重責を担われました。田丸城が陥落すると、平地での戦いは不利として興国4年（1343）一志郡多気（現在津市美杉町多気）に拠点を移し霧山城を築きました。ここは交通の要衝であるとともに、7つの峠に遮られた要害の地です。以後宿敵・伊勢守護高師秋との対決が続き、遂に正平5年（1350）1万余騎の師秋を打ち破り、更には正平7年2月の京都奪還の快挙は特筆すべき出来事でした。ただ『新葉和歌集』の「いかにして伊勢の浜荻吹く風の治まりにきと四方に知らせん」という公の和歌からは、皇国の道義のためとはいえ、凄まじい戦乱の絶え間の無い時代に生きたればこそその、穏やかな平和を祈る心情をうかがい知ることができるのであります。「弘和三年（一三八三）七月苑薨五十八歳、金剛寺に葬る」とありますが詳細は不明です。

## 例会変更のご案内

伊勢中央RC 3月22日（金）特別休会  
鈴鹿ベイRC 3月21日（木）特別休会 ※ビジター受付はご容赦ください。  
3月28日（木）農家食堂 わがやにて お花見例会のため  
※ビジター受付は、28日（木）鈴鹿サーキットホテル1Fロビーにて18:00～18:30まで行います。